

岩国飛行場への KC-130 空中給油機移駐完了に関する市長コメント

米軍基地普天間飛行場は、戦後 69 年が経過した現在も本市のど真ん中に存在し続け、宜野湾市民は航空機事故の危険性や騒音をはじめとする基地負担を負い続けております。

その様な中、山口県並びに岩国市のご理解の下、沖縄県に集中する基地負担の軽減を図るため、7 月 15 日から普天間飛行場所属の KC-130 空中給油機が岩国飛行場へ移駐されておりましたが、本日、その移駐が完了したとの連絡を受けました。

KC-130 空中給油機、全 15 機の移駐は、まさに目に見える形での負担軽減であり、山口県並びに岩国市のご英断と日米両政府関係者のご尽力に改めて感謝申し上げます。

当該機の移駐については、本市も負担軽減に大変期待しており、日米両政府に置かれましては、移駐の効果が損なわれないようご配慮いただくとともに、KC-130 空中給油機移駐の効果の検証及び検証結果の公表を行っていただき、「普天間飛行場負担軽減推進会議」等をとおして、更なる負担軽減の実施と、宜野湾市民の悲願である普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還の実現に向けて特段のご尽力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成 26 年 8 月 26 日

宜野湾市長 佐喜眞 淳